



B圖 前同ハーフ・ブレッズ・プラン

特長は非常に風上に切上る性能を有して、順風時には少々劣る様だが次第に改良されて、このスキヤングルとトリヤードの二隻が建造され、これが最近に於ける花形で互ひに選手権を争つて火花を散らして来た。

これに至る迄にはオスボーン氏の偉大なる功績を認めなければならない。オスボーン氏の謂ふところによれば、セーリングデンギーでは排水量と帆面積を減さなければならない。濠洲デンギーに於てもこれを認めた結果、最近の彼のデザインになる「ソーン」は十四フッターとしては最良のビーム即ち四呎六吋を採用してゐる。

トリヤードはビームが五呎で、ソーンよりも排水量が大で、ソーンの百六十平方呎に對する二百

六十平方呎の帆面積を持つてゐるが、ソーンの成績の方が優秀であつた。ソーンの特長は種々あるが、先づ第一にトリヤード型の價格の半額で出来重量が軽いので取扱ひに甚だ便利なことである。尙近代のデンギーは荒天に使用出来る様にハーフデツキの傾向がある。帆面積には制限がないので大いさと型は種々あるが、マルコニーリグが最も流行してゐる。そして普通二組乃至三組のセイルを所有して天候に應じて使用して居るが、これは非常に金がかかる事になるので帆面積を二百三十呎に制限される案が持ち上つてゐる。従つて濠洲に於ける十四呎デンギーは更に一段と一般化して協會の飛躍が期待されてゐるのである。

## 不忍池に

### セーリング・ボート出現?

前頁所載「小船繋留場座談會」に出席した東京市公園局長井下氏を、記者がその後訪問したところ「不忍池や荒川等の市營貸ボート場で、手軽な貸ヨットをやつてみたいと思ふが、どんなヨットが良いだろうか……」と質問があつたので、記者は早速ヨット協會内の専門家を訪ねて、智慧を借りる事にした。近く成案を得次第に貸する豫定である。

水に溺れて、僅かに貸ボートに集つて望みを満してゐる市民も、愈々梓な白帆に親しむ事が出来る譯で、之は公園局長の英斷に待つところである。前記座談會が先づ齎した實績の一つ。

### 湘南ヨット俱樂部成立

本邦ヨットレース界に古い歴史を有する湘南ヨットレ

ース大会は、毎年夏、葉山に於て盛大に舉行されてゐるが、今夏之が母體となつて、逗子、葉山、鎌倉に活躍するヨットマンを叫びし湘南ヨット俱樂部が組織された。會長には日本ヨット協會副會長西園寺八郎氏が就任されメンバーには小松侯、橋本伯、松平子、内藤子、大村子、吉川男等華胄界の名士が多い。前記三水域より選出された委員は下記の諸氏である。

- (逗子) 萩原武、糸山直行
- (葉山) 大村泰敏
- (鎌倉) 進藤光之助、前田雅彦

### 六米級設計圖購入

来るべきオリムピック東京大會のヨット・レースに備ふる爲に、西園寺八郎氏は、神戸のロイド派遣員ヨツタス氏を通じて、英國のデザイナー Alfred Mylne 氏より國際六米レーティング級の設計圖を購入した。

× × ×